



医療法人社団 東峰会

関西青少年サナトリウム

# ひるば

敷居の低い 癒しの場としての病院をめざして

発行 地域連携室

〒651-2403

神戸市西区岩岡町西脇838番地

TEL 078-967-1202(代表)

FAX 078-967-3626

URL <http://www.tohokai.jp/>

Email [office@tohokai.jp](mailto:office@tohokai.jp)

2024年  
5月号  
第173号



## 新院長よりご挨拶申し上げます

関係者の皆さま、私がこのたび、関西青少年サナトリウムの院長に就任することになりましたことを、

これまでともに職務に当たってきた皆様のおかげと大変嬉しく思っています。また、同時に、必ずしも容易ではない状況での大任に、身の引き締まる思いがいたします。

近年、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界状況も変化する中、我が国でも経済状況が悪化し、精神科を含む医療現場には様々な困難な状況が出現しました。当然ながら当院も多くの困難に直面しました。今なお、危機が去ったとは言いきれない状況にあります。その中で様々な対応策を講じ、対処する過程で、私たちは患者さんと職員の安全を守り、治療を行ってゆくために一丸となって努力し、成果を上げることができたと考えております。もちろん多くの皆様のご協力無くしてはあり得ないことでした。協力をいただいた方々には心から感謝いたします。

私が院長として考えてまいりますのは、関西青少年サナトリウムをより地域の精神科医療に関係する方から必要とされ、選ばれる病院にする。ということに尽きると思います。そのためには、治療の質の確保、その継続、新しい状況や施策に対しても適切に対応できる力を保っていくことを目指します。もちろん不断の研鑽や努力を続ける必要があります。様々な困難にも強く、より健全な病院にすることも必要と考えます。

そのうえで働く職員が当院で働くことに、誇りと満足を感じるようにすること、すなわちすべての職員が健康で、働きやすい環境を整えることが必要不可欠です。人が人に治療や支援を行うにあたっては、行う側の職員が健やかである必要があるはずです。その意味でも、職員がそれぞれに自己実現を果たし、仕事にやりがいを感じられる環境作りに取り組んでまいります。

以上が、私が掲げる目標です。関西青少年サナトリウムが未来に向けて目指す姿を実現していくためにも、今後も職員一丸となって取り組んでまいります。

最後に、今まで当院を支えてくれた前院長や関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。また、これから新たに羽ばたいていく姿を応援していただくと共に、引き続きご理解とご鞭撻をお願いする所存でございます。

院長

鬼頭 あつ志





## 副院長、医局長も新たに就任いたしました

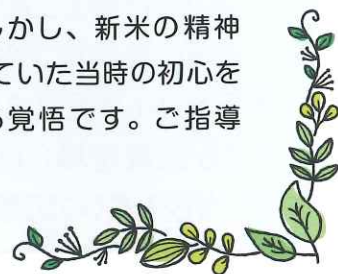


本年4月より関西青少年サナトリウムの副院長を拝命致しました。当院は地域の精神医療を支える基幹病院としての役割を担うとともに、これからも皆様の信頼と期待に応えられる病院であり続けなければなりません。責任の重さを痛感しつつ、自然体でこれまでに培った経験と知識をいろいろな場面で少しでも活かせればと願っています。



副院長 佐伯 龍

私が当院に入職したのは、阪神大震災から2年後の1997年1月です。今年で27年になります。当時は今の半分くらいの医師数で何とかやりくりしており、もちろん電子カルテなどもなく、手書き処方箋と格闘する毎日でした。ボールペンの消費量が半端ではなく、よくその辺に黒インクの芯だけ抜かれたボールペンが転がっていたことを記憶しています。医療の進歩は本当に日進月歩であり、立ち止まることは許されません。しかし、新米の精神科医として諸先輩方の背中を必死に追いかけていた当時の初心を忘れることなく、与えられた職責を全うする覚悟です。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。



2024年度から医局長に就任した狩場一郎です。佐伯先生から医局長を引き継ぐにあたり、この場にてご挨拶申し上げます。皆様のご助言、ご協力をあおぎながら務めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医局長 狩場 一郎

小生が当院に赴任し今年で14年目になりました。振り返って考えますと、これまで病院職員はもちろん、患者さんとそのご家族、関係機関の皆さんはじめ多くの方々に助けられてきたなど、痛感致します。この感謝の気持ちを忘れずに、当院の理念、使命、行動基準に基づいて医局を運営し、当院が患者さんやご家族、関係諸機関にとってより必要な存在となれるよう、みなさんに少しでも安心いただけるよう尽力してまいりたいと考えております。もちろん、患者さんやそのご家族にとっては一医師としてこれまでどおりお付き合いさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



新体制の元、スタッフ一丸となって、引き続き敷居の低い癒しの場としての病院をめざしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 地域の暮らしを支える ～人と人してつながる～

## 第4回 関西青少年サナトリウム オンラインセミナーを振り返って

2024年3月2日(土)に第4回オンラインセミナーを開催いたしました。私たち東峰会は、病気の治療だけでなく、多職種が連携して一人ひとりの生活に向き合い、その人らしさを大切にする支援を行っています。今回のセミナーは、当法人の訪問看護ステーションクローバー本部と、デイケアセンターから、事業所の特徴や事例を踏まえた講義をさせていただきました。日々の支援で大切にしていること、支援をする中でご本人に良い変化がみられてきたことなど、とても分かりやすい講義でした。

印象に残ったのは、「支援者は伴走者であり、進む方向を決めるのは本人」という言葉です。支援する側としては安全に、安心して、困らないように、などにご本人の希望よりも先に生活環境を優先して考えてしまいがちです。しかし、それが押しつけになってはいけないことを改めて感じました。自分の人生を決めるのは自分。私たちが当たり前におこなっていることを誰もが行えるように、そっと側に寄り添い、一緒に進む方向を考え、そして自分の進む方向を決めてもらう、そんな支援者でありたいと思います。

(地域連携室 角田絵美)



訪問看護クローバー本部 所長  
看護師 椎木 博昭



デイケアセンター センター長  
作業療法士 野島 美晴

## アンケートより

- ・地域生活を支える上での工夫を具体的な事例を通して知ることができました。
- ・本人の望みを大事にしながら関わっている様子が印象的でした。
- ・訪問看護、デイケアの意義や役割をより理解できました。
- ・「困りごとを聞くより、どうなりたいかを聞く」ということが印象に残りました。



神戸市、明石市以外からも、支援者やご家族、学生さんなど、幅広い方々にご参加をいただきました。

## 次回オンラインセミナーについて

次回のオンラインセミナーは2024年秋頃を予定しています。少しでも地域の皆様のお役にたてますよう、当院の魅力を身近に感じていただける内容をお届けできたらと思っています。オンラインセミナーの案内はホームページやポスターにてお知らせいたします。皆様、お気軽にご参加ください。

# お知らせ

2024年3月1日、サテライトから「訪問看護ステーション クローバー明石 事業所」となりました。

「人につながる 社会につなげる 自分の人生を紡ぐ」を理念に、「生き抜く力」を大切に皆様の暮らしを共に考えます。今後ともよろしくお願いいたします。



スタッフにインタビューしました

## Q クローバーの「ここがイイ!!」



スタッフAさん

日々、一喜一憂することの連続です。利用者さんと一緒に頭を悩ますこともよくあります。ただ、その過程も訪問看護師の大切な仕事のひとつだと感じます。



スタッフBさん

スタッフ同士も丁寧に安心して仕事ができる環境です。安心して働ける職場の環境が自分の活力となっています。



スタッフCさん

カンファレンスなど、お互いの意見を率直に出し合える場がある事が良いと思います。

## 外来担当医のご案内

### 外来再診担当医

受付時間 午前 8:50 ~ 12:00 午後 13:00 ~ 16:30

※土曜日の午後も診察開始いたします。

| 診察時間               | 月           | 火  | 水  | 木  | 金   | 土   |
|--------------------|-------------|----|----|----|-----|-----|
| 午前診<br>9:15~12:00  | 狩場<br>9:40~ | 鬼頭 | 内藤 | 瀬川 | 佐伯  | 当番医 |
| 午後診<br>13:00~16:50 | 石橋          | 西村 | 岡本 | 浅井 | 頼堀本 | 当番医 |

### 初診外来・入院 担当医

曜日別に下記の常勤医師を中心に、上記の外来再診担当医以外の医師が診察します（順不同）

| 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土    |
|----|----|----|----|----|------|
| 堀本 | 向井 | 浅井 | 藤本 | 塚本 | 当番医① |
| 浅井 | 石橋 | 塚本 | 向井 | 藤本 | 当番医② |
| 藤本 | 堀本 | 向井 | 塚本 | 石橋 | 当番医③ |
| 岡本 | 内藤 | 鬼頭 | 佐伯 | 狩場 |      |
| 佐伯 |    | 瀬川 | 狩場 | 岡本 |      |

### 専門外来担当医のご案内

- ☆＜児童思春期外来＞毎週月曜午後 **完全予約制**（担当：内藤医師）
- ☆＜発達障害専門外来＞第3金曜午後（月1回） **完全予約制**（担当：上月医師）
- ☆＜高齢者外来＞毎週火曜午後 **完全予約制**（担当：阪井医師）

### 編集後記

吹き抜ける風が気持ちのいい季節となりました。新年度が始まり1か月が経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

青々とした若葉が顔を出し、色とりどりの花が咲き始めました。夏の本格的な暑さを迎える前の束の間のこの過ごしやすい季節に、私は草野球をめいっぱい楽しみたいと思います。

（総務部 医事課：井戸 孝信）

## お知らせ

2024年3月1日、サテライトから「訪問看護ステーション クローバー明石 事業所」となりました。

「人につながる 社会につなげる 自分の人生を紡ぐ」を理念に、「生き抜く力」を大切に皆様の暮らしを共に考えます。今後ともよろしくお願いいたします。



スタッフにインタビューしました

Q クローバーの「ここがイイ!!」



スタッフAさん

日々、一喜一憂することの連続です。利用者さんと一緒に頭を悩ますこともよくあります。ただ、その過程も訪問看護師の大切な仕事のひとつだと感じます。



スタッフBさん

スタッフ同士も丁寧に安心して仕事ができる環境です。安心して働ける職場の環境が自分の活力となっています。



スタッフCさん

カンファレンスなど、お互いの意見を率直に出し合える場がある事が良いと思います。

## 外来担当医のご案内

### 外来再診担当医

受付時間 午前 8:50～12:00 午後 13:00～16:30

※土曜日の午後も診察開始いたします。

| 診察時間               | 月           | 火  | 水  | 木  | 金   | 土   |
|--------------------|-------------|----|----|----|-----|-----|
| 午前診<br>9:15～12:00  | 狩場<br>9:40～ | 鬼頭 | 内藤 | 瀬川 | 佐伯  | 当番医 |
| 午後診<br>13:00～16:50 | 石橋          | 西村 | 岡本 | 浅井 | 頼堀本 | 当番医 |

### 初診外来・入院 担当医

曜日別に下記の常勤医師を中心に、上記の外来再診担当医以外の医師が診察します（順不同）

| 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土    |
|----|----|----|----|----|------|
| 堀本 | 向井 | 浅井 | 藤本 | 塚本 | 当番医① |
| 浅井 | 石橋 | 塚本 | 向井 | 藤本 | 当番医② |
| 藤本 | 堀本 | 向井 | 塚本 | 石橋 | 当番医③ |
| 岡本 | 内藤 | 鬼頭 | 佐伯 | 狩場 |      |
| 佐伯 |    | 瀬川 | 狩場 | 岡本 |      |

### 専門外来担当医のご案内

☆＜児童思春期外来＞毎週月曜午後 完全予約制（担当：内藤医師）

☆＜発達障害専門外来＞第3金曜午後（月1回）完全予約制（担当：上月医師）

☆＜高齢者外来＞毎週火曜午後 完全予約制（担当：阪井医師）

### 編集後記

吹き抜ける風が気持ちのいい季節となりました。新年度が始まり1か月が経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

青々とした若葉が顔を出し、色とりどりの花が咲き始めました。夏の本格的な暑さを迎える前の束の間のこの過ごしやすい季節に、私は草野球をめいっぱい楽しみたいと思います。

（総務部 医事課：井戸 孝信）

医療法人社団 東峰会  
関西青少年サナトリウム  
**ひるば**  
敷居の低い 癒しの場としての病院をめざして

発行 地域連携室

〒651-2403

神戸市西区岩岡町西脇838番地

TEL 078-967-1202(代表)

FAX 078-967-3626

URL <http://www.tohokai.jp/>

Email [office@tohokai.jp](mailto:office@tohokai.jp)

2024年  
5月号  
第173号



## 新院長よりご挨拶申し上げます

関係者の皆さま、私がこのたび、関西青少年サナトリウムの院長に就任することになりましたことを、これまでともに職務に当たってきた皆様のおかげと大変嬉しく思っています。また、同時に、必ずしも容易ではない状況での大任に、身の引き締まる思いがいたします。

近年、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界状況も変化する中、我が国でも経済状況が悪化し、精神科を含む医療現場には様々な困難な状況が出現しました。当然ながら当院も多くの困難に直面しました。今なお、危機が去ったとは言いきれない状況にありますが、その中で様々な対応策を講じ、対処する過程で、私たちは患者さんと職員の安全を守り、治療を行ってゆくために一丸となって努力し、成果を上げることができたと考えております。もちろん多くの皆様のご協力無くしてはあり得ないことでした。協力をいただいた方々には心から感謝いたします。

私が院長として考えてまいりますのは、関西青少年サナトリウムをより地域の精神科医療に関係する方から必要とされ、選ばれる病院にする。ということに尽きると思います。そのためには、治療の質の確保、その継続、新しい状況や施策に対しても適切に対応できる力を保っていくと目指します。もちろん不断の研鑽や努力を続ける必要があります。様々な困難にも強く、より健全な病院にすることも必要と考えます。

そのうえで働く職員が当院で働くことに、誇りと満足を感じるようにすること、すなわちすべての職員が健康で、働きやすい環境を整えることが必要不可欠です。人が人に治療や支援を行うにあたっては、行う側の職員が健やかである必要があるはずで、その意味でも、職員がそれぞれに自己実現を果たし、仕事にやりがいを感じられる環境作りに取り組んでまいります。

以上が、私が掲げる目標です。関西青少年サナトリウムが未来に向けて目指す姿を実現していくためにも、今後も職員一丸となって取り組んでまいります。

最後に、今まで当院を支えてくれた前院長や関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。また、これから新たに羽ばたいていく姿を応援していただくと共に、引き続きご理解とご鞭撻をお願いする所存でございます。

院長 鬼頭 あつ志



## 副院長、医局長も新たに就任いたしました

本年4月より関西青少年サナトリウムの副院長を拝命致しました。当院は地域の精神医療を支える基幹病院としての役割を担うとともに、これからも皆様の信頼と期待に応えられる病院であり続けなければなりません。責任の重さを痛感しつつ、自然体でこれまでに培った経験と知識をいろいろな場面で少しでも活かせればと願っています。



副院長 佐伯 龍

私が当院に入職したのは、阪神大震災から2年後の1997年1月です。今年で27年になります。当時は今の半分かくらいの医師数で何とかやりくりしており、もちろん電子カルテなどもなく、手書き処方箋と格闘する毎日でした。ボールペンの消費量が半端ではなく、よくその辺に黒インクの芯だけ抜かれたボールペンが転がっていたことを記憶しています。医療の進歩は本当に日進月歩であり、立ち止まることは許されません。しかし、新米の精神科医として諸先輩方の背中を必死に追いかけていた当時の初心を忘れることなく、与えられた職責を全うする覚悟です。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。



2024年度から医局長に就任した狩場 一郎です。佐伯先生から医局長を引き継ぐにあたり、この場にてご挨拶申し上げます。皆様のご助言、ご協力をあおぎながら務めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医局長 狩場 一郎

小生が当院に赴任し今年で14年目になりました。振り返って考えますと、これまで病院職員はもちろん、患者さんとそのご家族、関係機関の皆さんはじめ多くの方々に助けられてきたなど、痛感致します。この感謝の気持ちを忘れずに、当院の理念、使命、行動基準に基づいて医局を運営し、当院が患者さんやご家族、関係諸機関にとってより必要な存在となれるよう、みなさんに少しでも安心いただけるよう尽力してまいりたいと考えております。もちろん、患者さんやそのご家族にとっては一医師としてこれまでどおりお付き合いさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



新体制の元、スタッフ一丸となって、引き続き敷居の低い癒しの場としての病院をめざしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 地域の暮らしを支える ～人と人してつながる～

### 第4回 関西青少年サナトリウム オンラインセミナーを振り返って

2024年3月2日(土)に第4回オンラインセミナーを開催いたしました。私たち東峰会は、病気の治療だけでなく、多職種が連携して一人ひとりの生活に向き合い、その人らしさを大切にする支援を行っています。今回のセミナーは、当法人の訪問看護ステーションクローバー本部と、デイケアセンターから、事業所の特徴や事例を踏まえた講義をさせていただきました。日々の支援で大切にしていること、支援をする中でご本人に良い変化がみられてきたことなど、とても分かりやすい講義でした。

印象に残ったのは、「支援者は伴走者であり、進む方向を決めるのは本人」という言葉です。支援する側としては安全に、安心して、困らないように、などご本人の希望よりも先に生活環境を優先して考えてしまいがちです。しかし、それが押しつけになってはいけないことを改めて感じました。自分の人生を決めるのは自分。私たちが当たり前におこなっていることを誰もが行えるように、そっと側に寄り添い、一緒に進む方向を考え、そして自分の進む方向を決めてもらう、そんな支援者でありたいと思います。

(地域連携室 角田絵美)



訪問看護クローバー本部 所長  
看護師 椎木 博昭



デイケアセンター センター長  
作業療法士 野島 美晴

### アンケートより

- ・地域生活を支える上での工夫を具体的な事例を通して知ることができました。
- ・本人の望みを大事にしながら関わっている様子が印象的でした。
- ・訪問看護、デイケアの意義や役割をより理解できました。
- ・「困りごとを聞くより、どうなりたいかを聞く」ということが印象に残りました。

神戸市、明石市以外からも、支援者やご家族、学生さんなど、幅広い方々にご参加をいただきました。



### 次回オンラインセミナーについて

回りのオンラインセミナーは2024年秋頃を予定しています。少しでも地域の皆様のお役にたてますよう、当院の魅力を身近に感じていただける内容をお届けできたらと思っています。オンラインセミナーの案内はホームページやポスターにてお知らせいたします。皆様、お気軽にご参加ください。